

RI第2620地区 静岡第3分区

沼津柿田川ロータリークラブ



RI会長 田中作次
 RI第2620地区ガバナー 高野 孫左エ門
 会長 野口 郁夫
 幹事 高田 聡
 例会日時 毎週月曜日 12:30点鐘
 例会会場 沼津卸商社センター 2F
 〒411-0912 静岡県駿東郡清水町卸団地203
 TEL 055-971-6500
 〒410-0312 沼津市原1771-2 増田方
 TEL 055-969-2321 FAX 055-969-2322
 E-MAIL officework@rcj-nk.org

事務局

会長挨拶

第1471回例会 会長挨拶

会長 野口郁夫

13日には会員の皆様、贈呈式に参加いただきましてお疲れ様でした。本年度の奉仕事業の柱であります水保全事業「柿田川湧水を守ろう！」のCDが予定どおり町へ贈呈することが出来ました。本年度スタートしてから計画が始まり完成まで約8か月かかりました。データ収集や写真撮り、子供たちへの作文の依頼、関係者への原稿の依頼等、会員の皆様には大変ご苦労いただきました。心より感謝申し上げます。この作成したCDを1人でも多くの方々に見ていただき、私どもが意図した柿田川湧水保全の必要性を理解していただき、水を大切に人の輪が広がればと思います。

湧水は富士山からの自然の恵みであります。富士山を綺麗な環境として守ることが湧水の保全にもつながることでもあります。富士山世界文化遺産に認定されることがいつまでも環境を守ることとなります。

さて、今月は識字率向上月間です。我が国における識字率は教育システムがしっかりしているので世界一と言われておりますが、アフリカ大陸では識字率が30%に満たない国がいくつかあるようです。識字率が低い為に豊かさを手にできない人たちが多数いる。その人達のために役立つことを考えるのがロータリーであります。識字率向上は人々を幸せにします。

本日のゲスト・ビジター

ビジター 沼津西RC 渡辺亀一様
 ビジター 三島西RC 佐々木雅浩様
 ゲストはありませんでした。

スマイル報告

伊藤 毅 明日3月19日に長男が卒業式です。
 岩本義正 バッジ忘れしました。
 菊地勝男 早退します。

幹事報告

■ 事務連絡 ■

*ガバナーエレクト事務所より
 ローター財団にご寄附お願いの件 到着
 *伊豆中央RCより
 例会場・例会時間変更のお知らせ(5月1日より)
 ホテルサンバレー富士見
 〒410-2201 伊豆の国市古奈 185-1
 TEL055-947-3100 FAX055-947-0564
 例会時間 点鐘19時

■ 例会変更 ■

*沼津西RC
 4月11日(木)→夜間例会

■ 週報到着 ■

沼津西RC

柿田川水保全事業

3月13日(水)に清水町役場にて清水町長へDVDを寄贈しました。教育委員会を通じ、清水町の小中学校の卒業生へプレゼントされます。また3月14日付けの静岡新聞にも掲載されました。



新入会員卓話



【感動】

横山忠男 会員

今日、平成25年3月18日、皆様の記憶にも新しい平成23年3月11日、東北に大きな地震がありました。多くの人達が亡くなり、家を失い、仕事も失い、親、兄弟、親戚、友人達を失い、未だに見つからない人達もいる、大きな出来事がありました。東北の人々の力で復興を目指していますが、まだまだ形にはなっておりません。

日本赤十字社に集められた義援金も、全ての人に配布されていないのが現状です。同じ日本の中に住んでいて明暗を分けたような出来事でした。

この大震災により、一人の男の子の話がベトナムで話題になった事を今日、話をさせて頂きたいと思います。

私はベトナムで仕事を始め17年間の経ちました、17年前にシンガポールの友人の紹介で、ベトナムへ行ったのがきっかけで仕事を始めたのが最初です。それから研修生の育成事業を始め、現在では、ベトナム最大手の人材派遣会社とジョイントして、エクセレント・アジア・ライフ CO,LTD というビジネスセンターを設立しました。主な仕事は、日本へ行く実習生への日本語教育、ビジネスマナー、日系企業に対する日本語教育です。17年間の歩みの中で数多くの人達と出会い、現在も繋がりをもち交流しております。

一昨年のお話ですが、ホーチミンにて現地ベトナム企業のフォーラムがあり参加をすることになりました。その参加者の中に日本をテーマにし紹介する新聞記者がいました。その新聞記者が私に直接話をしてきました！内容はちょうど2年前に起きた東北の大地震のことでした。記者の話は、地震が起きた時の様子をベトナムメディアを通じて人々に伝える為に来日をしていました。記者が宮城県で取材をしている時にある光景を目にしたそうです。

朝、朝食を貰う為に並んでいた列を見ていた時、小学生ぐらいの男の子が列の最後尾に並んでいたそうです。本来であれば大人が並び、子供は待って居るはずなのに、裸足で並んでいたその子の行動に興味を持った記者は、その子の様子をうかがっていたそうです。しばらく様子を伺っていた時、その男の子は何度もその列に並び直し食事を何処かに運んでいたそうです。記者が4回目の時に、その男の子の後を着いて行くと！そ

の男の子は、その食事を動けなくなっている年寄りの所に運んでいたそうです！それを目にした記者は、その男の子に声を掛け、君は、お年寄りの人に運んでばかりいて、君は食べないと尋ねたそうです。その男の子から戻ってきた言葉は、僕は動けますと言ったそうです。

次に記者は、君の両親は何処に居ると尋ねると、その男の子から次に戻ってきた言葉は、両親と弟は海にさらわれましたと答えてきたそうです。

記者はその言葉を聞いて胸が苦しかったそうです！自分は何んの為にベトナムから取材にきたのか！！その男の子の行動に返す言葉を失った記者は、取材を止めて、自分のバックから持っていたサンダルと自分が履いていた靴下を渡し、同行したスタッフと共に列に並び一緒に運んだそうです。列に並んでいる最中、記者は男の子に対して何歳ですかと尋ねると10歳ですと答えたそうです。記者は、男の子に！君の面倒をみたいのですがと言うと男の子は、僕にはまだ親戚が残って居ます！だからもっと大変な人を助けてあげて下さいと言ったそうです。

記者自身、10歳の男の子の言葉、行動、勇気に胸が張り裂けそうな気持ちになったそうです。別れ際に男の子の小さな冷たい切った手を握り締めた時、記者は、涙が止まらなかったそうです。その言葉、行動、勇気に打たれた記者は、自分の目にしてきた現実を皆に教えてあげたく、記事にしたそうです！！

今まで当たり前人生を過ごしてきた私自身がこの場面に直面したとしたら、家族を失った悲しみが先に来て10歳の男の子のような行動がはたして取れるのでしょうか！このような事を考えると胸が苦しくなります。

被災地へ寄付することが善意と思っていたことが！お金では買えない支援を男の子に教わった気がします。

このことによりベトナムでは支援活動が進み、かなりの義援金が集まり東北へ寄付をしたそうです。私の17年来の友人達もこのことにより、皆で出し合った50万円を私に託し、日本赤十字社を通し寄付を致しました。ベトナムの一ヶ月の給与が平均3万円に対しての寄付にしては、凄いものだと思います。

今回の東北地震で、海外の人達の心を動かしたのは、地震の大きさだけではなく、この男の子の善意だったのではないのでしょうか。今、少しずつ忘れかけてきているのではないのでしょうか。昔の日本人達が苦勞し助け合い築き上げてきたからこそ、今の日本があると言うことを、私たちは当たり前で思っていたのかもしれない。今回のことは、そのような昔を思い出させるような話でした。

この記者が最後に私に言っていました。私は、この男の子の事を生涯忘れることはないでしょう。この男の子に出会えた事で、自分自身を見つめ直すことが出来ました。そして、これから先、次の世代の子供達に、この話を伝えていきたいと語っていました。

もし今、騒がれている東海地震に、何時の日か私たちも、その場面に遭遇するかもしれません。その時の為にも、この男の子の勇気ある優しさを忘れてはいけけないのではないのでしょうか。

家族の中で、たった一粒の小さな命が助かりました。でも、その小さな命は、生涯、大きな悲しみを一生背負っていかねばなりません。この男の子が将来幸せになれる事を心から願っております。

◆次回例会プログラム◆ 卓話（雑誌委員会・太田会員）

出席報告

会員数	出席計算に用いた会員数	出席計算に用いた出席者	出席率	3月4日修正出席率
17名	17名	14名	82.30%	100%

出席：古泉・太田・原・野口・菊池・前田 他 計14名

欠席：前田・濱田・石井 計3名

MU: 計0名